

「水田輪作新技術プロジェクト」キックオフフォーラムの開催について

1. 趣 旨

国内の農業従事者数はここ 20 年間で半減しており、離農に伴う農地は担い手と呼ばれる経営体に集積することで大規模化が進むと考えられます。一方、規模拡大に伴う生産性向上には限度があり、新技術導入によって水田をフル活用して生産性をさらに高めていく必要があります。

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（以下、「農研機構」という。）は、水田をフル活用した農業をより推進するため、農研機構が開発した土地利用型農業をベースとする新たな農業技術をパッケージ化し、地域の皆様と一緒に利用拡大を目指す「水田輪作新技術プロジェクト」を発足します。

プロジェクト発足にあたり本キックオフフォーラムを開催し、技術パッケージに導入する農研機構選りすぐり技術の紹介や、「水田フル活用に必要とされる技術とは何か」と題したパネルディスカッションを通じて、これからの農業で水田をフル活用し、生産性と収益性を向上させていくにはどうしたらよいかを一緒に考えます。

2. 開催日時：令和 7 年 12 月 11 日（木） 13：30～16：45

3. 開催場所：つくば国際会議場 中ホール 300
（茨城県つくば市竹園 2 丁目 20-3）

4. 開催方法：会場 230 名（先着順）及びオンライン配信

5. 主 催：農研機構

6. 内 容

1) 基調講演 13：30～13：50

■ 高収益水田輪作を実現する省カスマート技術パッケージの開発・導入

農研機構 本部 企画戦略本部 セグメントⅡ 理事室 室長 古畑 昌巳

2) 講演

【招待講演】 13：50～14：05

■ たまねぎの直播栽培技術

株式会社クボタ 農機国内本部 担い手戦略推進室 技術顧問 菊池 昌彦

【一般講演】

■ 「にじのきらめき」および関東における乾田直播栽培 14：05～14：20

農研機構 中日本農業研究センター 研究推進部 非常勤顧問 塚本 心一郎

- 西日本に広がる水稻乾田直播栽培 14 : 20 ~ 14 : 35
農研機構 西日本農業研究センター 研究推進部 岡本 毅
- 多収水稻品種を活用した再生二期作技術 14 : 35 ~ 14 : 50
農研機構 中日本農業研究センター 研究推進部 技術適用研究チーム
主席研究員 中野 洋
- 水田転換畑の大豆作（湿害対策技術と灌水技術） 14 : 50 ~ 15 : 05
農研機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 研究領域長
高橋 智紀
- 大豆の新しい播種技術の開発と普及 15 : 05 ~ 15 : 20
農研機構 九州沖縄農業研究センター 暖地水田輪作研究領域
スマート水田輪作グループ 上級研究員 松尾 直樹
- 質疑応答 15 : 20 ~ 15 : 35
～ 休憩（10分）～

3) パネルディスカッション 15 : 45 ~ 16 : 45

テーマ：水田フル活用に必要とされる技術とは何か

モデレーター：農研機構 本部 企画戦略本部 セグメントⅡ 理事室 室長 古畑 昌巳

パネリスト：株式会社西部開発農産 受託部 部長 清水 一孝
株式会社クローバー・ファーム 代表取締役 高橋 大希
有限会社アシスト二十一 代表取締役 木村 清隆
有限会社フクハラファーム 取締役会長 福原 昭一

7. 事務局

農研機構 本部 企画戦略本部 セグメントⅡ 理事室 古畑
事業開発部 地域連携課 竹内

8. 問合せ窓口

農研機構 本部 事業開発部 事業開発総括課 坪・山下

TEL：029-838-6952

Mail：administration_section-hq@ml.affrc.go.jp

※内容が変更になることもございますので、予めご了承ください。